

参考資料①-2

三井物産クラシック・コンサート 2021 ～明日へつなぐハーモニー～

工藤重典さん・大萩康司さんトーク <収録映像 文字起こし>



フルートとギターによるピアソラ「ブエノスアイレスの四季 <冬>・<春>」

（左）フルート、工藤重典（くどうしげのり）

1979 年、パリ国立高等音楽院のジャン・ピエール・ランパル氏のクラスを一等賞で卒業、パリ国際フルートコンクール、ミュンヘン国際コンクールなどに入賞。海外の主要オーケストラやアーティストとも共演し、現在パリ・エコール・ノルマル、東京音楽大学他で後進の指導にもあたっている。

（右）ギター、大萩康司（おおはぎやすじ）

パリのエコール・ノルマル、パリ国立高等音楽院などで研鑽を積み、世界最高峰といわれるハバナ国際ギターコンクールで第 2 位を受賞。国内のみならず、ヨーロッパ、アジア、南米など世界各地で活躍の幅を広げている。

松本 改めましてご紹介いたします。フルーティストの、工藤重典さん、ギタリストの大萩康司さんです。よろしくお願い致します。さあ、バッハのブランデンブルグ協奏曲でこのコンサート幕を開けました。工藤さん、アンサンブルと一緒に演奏でしたが、いかがだったでしょうか？

工藤 ああ、すごいね、こう、若い人たちのエネルギーというか、フレッシュな感じで、普通この曲は、この曲で終わる場合も結構あるんですけど、今日はこれで始まったというのがすごく印象的です。本当にエネルギーを感じました。

松本 素晴らしい工藤さんの演奏でした。そして、続きまして、ピアソラなのですけども、フルートとギターのデュオで今日はみなさんに届けてくださるということなのですが

大萩 本当は去年の 6 月くらいにご一緒する機会があったんですけど、やっぱりコロナの影響があってそれでキャンセルになっちゃったんですね。この二人が演奏する機会というのが、今日が本当に初めての舞台になりました。

松本 これからお二人に演奏していただくのは、『ブエノスアイレスの四季』です。

大萩さん、これはどういう曲なのでしょう？

大萩 これはもともとは、クインテット、五重奏団ですね、ピアソラの五重奏団のために、ピアソラが書いた曲だったんですけども、だからバンドネオンと、バイオリン、そしてエレキギター、ピアノ、コントラバスですね、その五台の楽器のために書いているので、それを二人でやるってことだけでもハードルの高い曲ですけども、やりがいのある曲で、すごく内容の濃い曲なので、楽しめればと思っています。

工藤 実にですね、本来は五重奏のために書かれた曲を二人だけでやるってなるとですね、編曲しなきゃいけない。で、編曲してくれたのが、我々の仲間のひとりである鈴木大介さん、という方、大変器用で才能豊かなギタリストがいっしょにいて、私もよく演奏するんですけど一緒に。彼はですね、大変な編曲の才能の持ち主ですよ。

大萩 すごいですね。はい。

工藤 今日演奏する二曲は全て彼の編曲によるもので、本当に難しいけど、（こういう機会は）ありがたいですね。

大萩 そうですね。

工藤 挑戦です。もともと難しい曲なんですけど、それをもう2人だけでやるというのが。

大萩 それを披露するのが今日初めてなのです。

松本 今日実は四季の中から、冬と春を演奏していただくのですが、この四季の中から曲を選ばれたのは、大萩さんなのか意図があるのでしょうか？

大萩 はい、やっぱり今、いろんな難しい時代なんですけど、それが冬だと例えると、ブエノスアイレスの冬の中には春のモチーフが一節入っていて、それが次の春を演奏することでなにか昇華できればいいなと思っています。

松本 本当に、今、まさにこの時期にぴったりということで、楽しみに聞かせていただきたいと思います。

以上